

酒々井町郷土研究会々報

第68号

平成5年4月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

香と日本人

日本人が育んだ香りの文化

成田山・東門前
詩仙香房
丸岡ひとみ

香木の渡来

『日本書紀』によると、推古三年(五九五年)の茶に「夏四月、沈水、淡路島に漂着せり。基の大きさは一圍、嶋人、沈水といふことを知らずして、薪に交ててかまどに焼く。其の烟氣遠く薫る。則ち異なりとして獻る。」と香木渡来を伝える最古の記録があります。仏教に造詣の深かった聖徳太子が、それを見て、沈香(最高の香料)と判断したといわれています。

仏教儀礼から貴族社会へ

日本で仏教儀礼に香が用いられたという記述は、七世紀に入ると見られますが、本格的な香の使用が広まっていったのは、奈良時代後期、七五三年、鑑真和上が日本に来朝してからとなります。唐から仏教の戒律を伝

「香道」の成立

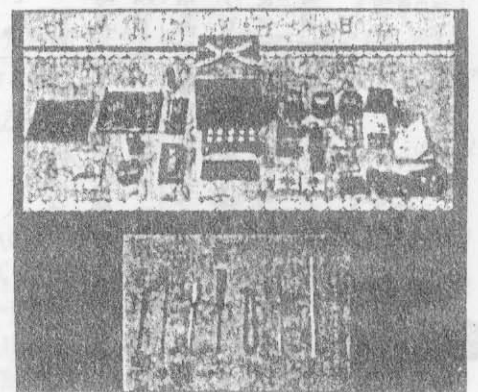
貴族から武士へと時代が移り変わると、武士達も香りを楽しむようになりました。貴重な香木も南蛮貿易によって、日本に入ってくるようになったことも

えに來た鑑真和上は、貴重な教典と共に多くの香料をもたらし、香りの高い薫物をつくる正式の調合方法を伝えました。この薫物は後に仏教儀礼用だけでなく、貴族達の間で生活の中に取り入れられ、『源氏物語』に見られる雅びな遊びとして発展しました。平安貴族たちは、各自の秘密の調合法をもち、自分だけの香りを楽しむ一方、各人の香りの優劣を競う「薫物合」などのゲームを生み、これが現在も伝わる「香道」の源泉となりました。

あり、薫物の人間の調合した香りから、大自然の香りそのものを味わう香木尊重の時代が一世紀頃から始まります。バサラ大名・佐々木道譽は沈香を一度に一斤も薫いて豪快に楽しんだことで有名ですが、他方では、優れた香好きの風流人として、沈香の一大コレクションをもっていました。(一斤は約600グラム)

この道譽の残した一七〇種余の沈香は、後に成立する香道の基準となる香木の基準「六回五味」の体系づくりの元となるほどのものでした。

一六世紀末、茶道や立花、能等の諸芸能が華開いた東山文化の時代、武士に愛好されていた香木そのものの香りを味わう形式をベースに平安時代の「薫物合」の要素を取り入れた「香道」が成立しました。貴族系統の三條西実隆の御家流と武士系統の志野宗信の志野流がそれで、江戸時代に隆盛を極め、現在もこの二大流派によって「香道」が伝承されています。



香道具

注① バサラ

鎌倉幕府滅亡以来の激動の世相に流行した華麗な風潮で、その奇矯な行動、風体をはじめ、技、器具、装身具類にもバサラの名をつけた。『太平記』は、佐々木道譽の一族郎党の服飾を「バサラ」風流と評している。

注② 佐々木道譽

鎌倉末、南北朝時代の武将。文化人名は高氏。道譽は法号で導譽とも書く。『中先代の乱』に足利尊氏に属して東下、幕府の再興と安定に貢献した。ただ内乱の渦中で彼の行動は権謀術数を駆使したものが多く、「バサラ」の王者と評され、茶、花、香、田楽など諸芸能を愛好し、連歌もよくし、当時第一級の文化人だった。



目黒探訪記

石橋 悟

十二月十八日は郷土研今年最後の見学会の日。朝五時に目が覚めてしまう。外は暗闇と思いきや半月が皓々と輝いている。「天気晴朗なれど寒気厳し」といつた感じ。年の瀬も近く、こう寒くては参加者も少ないだろうと思いつながら京成駅へ行ってみると顔見知りの美男美女がずいぶ集まっており、総勢三一名は貸し切りの状態で、会話を楽しんでいる間に五反田駅に到着した。先ず最初は大円寺へ。こゝでは江戸の大火で焼死された人々を偲んで造られたという五百羅漢を拝し、紅葉を愛でながら境内を散策する。当寺には国宝生身釈迦如来像がまつられている由の高札があるも拝観出来ず残念。

目黒不動尊では門前左手前に白井権八、小紫の比翼塚があり、説明を聞いた後も熱心に説明札を読まれている方がいて、自分の昔の恋人のことも思い出しているのかその心境を尋ねたい気もする。門内の広場に入り福田さん差し入れの水羊羹を食べながら小休止。石段を上り、本殿前で堂内の参拝人の背中に手を合わせる形で参拝した。本堂裏に大日如来像がある旨の案内板があり私めの守り本尊であるので省略する訳にも申かず念入りに手を合わせた。次いで青木昆陽の墓を見学して昼食の場へと向かう。

午後には東京都庭園美術館(旧朝香宮邸)で正面玄関扉ガラスの素晴らしさに驚かされた。各室の壁画、大理石のレリーフ、調度品、展示品等で皇族の往時の生活様式を想像するも所詮私如きの思い及ぶところではないとあきらめ、庭園を一廻りする。次いですぐ隣りの自然教育園へ歩を運ぶ。この庭園は自然のままにしてあるのが隣りさんとは違って荒れているのが見方によつてはこちらの方が面白い。圧巻は「大蛇の松」と名付けられた黒松で、龍が天に登る姿を思わせるが園の一番奥まった所にあったためはたして何人の方が見られたことか一寸残念な気も

した。午後三時に当園で解散し、その後有志で浅草寺の羽子板市へ寄り午後六時二五分酒々井駅着。本日の歩程約二万歩とのこと。

香りの世界に
遊びませんか

「香」を聞く会のお知らせ

古くから日本に伝えられてきた香道は、日本の文化に大きな役割を果たしてきましたが、華道や茶道ほどには一般的ではありませんでした。「香」の文化が見なおされつつある今日、世界に類をみない独自の発展を遂げたお香の歴史を知り、優雅な香りを体験する「香」を聞く会を開きます。

成田東門前「詩仙香房」の丸岡ひとみさんを講師にお香は何かというところから香道の組香までを勉強します。時間には追われる忙しい日々の中でも、日本人の感性が育んだ豊かなお香の世界に触れてみましょう。

- 第一回 お香の歴史と香道
- 第二回 組香の仕組みと六国五味
- 第三回 「季節の組香」体験

会計報告

(見学会)	(野草の会)
栗原白丸九野面 6.9%	×草野を食べる会 3/2
参加人数 52名	収入 500円×62 = 31,000円
収入 3,500円×52 = 182,000円	支出 34,664円
支出 175,200円	内訳
内訳	食品材料代 30,369円
砂風呂入湯料 83,700円	容器代 4,192円
昼食代 63,840円	コピー代 103円
ドライバー昼食代 6,000円	
町バス使用料 20,600円	
連絡TEL北 1,060円	
残金 6,800円	不足額 3,664円
郷土研へ	郷土研より補足



納入について

桜の花咲くよき候となり、参りました。郷土研も冬眠期からさめたように活動期に入ってきました。皆様のご参加お待ちしております。

平成五年度会費について整理しております。お忘れの方は、最寄りの役員か会長までご連絡下さいませ。お願い申し上げます。

会長 会田香雄定

平成5年度第一七回
定期総会報告

寒中といいいながらおだやかな小春日和のなか、平成五年一月三十一日(日)午後一時三十分より酒々井町中央公民館講堂において第一七回定期総会が一一〇名の多数の出席者のもと開催されました。会長金田秀雄氏の挨拶の後、議長に福田豊吉氏が選出され「会則の一部改正」、「平成四年度事業報告及び決算」について審議承認され、続いて「平成五年度の事業計画案及び予算案」が審議の結果原案通り承認可決されました。

尚、全員賛成で一部改正された会則のうち新規のものは次の通りです。

第八条(運営委員会)

本会の運営ならびに活動に関する重要事項を審議するため運営委員会を設ける(以下略)

第九条(専門部会)

事業活動の企画、立案ならびにその実施作業を円滑に行うため専門部会を設ける。(以下略)

第十条(顧問)

本会に顧問をおくことができ(以下略)



平成5年度事業計画 5月1日～5年12月

事業名	説明
1 町内史跡めぐりハイキング	年1回 教養委員会と共催
2 見学会	県内 年2回
	県外 年1回
	1泊 年1回
3 史談会	年6回
4 「香」をきく会	年3回
5 野草の会	年2回 七草粥を食べる会 山菜を食べる会
6 名勝探訪	年7回 (ただし雨天休止)
7 郷土史講座	年1回
8 史跡文化財愛護活動	年2回
9 会報発行	年4回
10 運営委員会	年5回
11 総会	年1回 平成5年1月31日(日) 第17回定期総会

平成5年度事業計画表

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
町内史跡めぐり					○							
見学会	県内		○									
	県外											○
	1泊				○							
史談会	○	○					○	○	○		○	
香をきく会				○	○	○						
野草の会	○		○									
名勝探訪	○	○	○	○		○		○		○		
郷土史講座								○				
史跡文化財愛護活動				○			○					
会報発行	○		○		○		○		○			
運営委員会	○	○			○			○		○		○
総会	○											

※ 事業計画については変更する場合がありますのでご了承下さい。(6月までは変更時記入)

役割分担

執行部

会長 会田秀雄
副会長 青木朝次 上田悦子
会計 玉井旭 武藤厚子
監事 中村寛 福田豊吉

野草の会部

助 玉子
横山ふみ子
渡辺 徳

総務部

青木かずこ
鷗岡 知子
藤崎 房枝

会報部

白石栄子
佐藤照子
福田照子
福田芳江
遠藤梅子
上野和子

研修部

高橋喜重 行武政市
古川国雄 相京 豊
石橋 悟 江沢武夫
桜井徳三 寺本恵美
富沢 勝 林 芳子
廣井久次郎 福田正一
山内 農一

郷土研日誌

月日	内容	参加人数	月日	内容	参加人数
1.7	会計監査(平成4年度)	7名	2.19	名勝探訪 品川方面	35名
1.8	予算編成(平成5年度)	5	3.4	定例運営委員会(4季)期行事	24
1.16	定例運営委員会(総会準備)	24	3.5	県内見学会 白子九机野面(A班)	26
1.18	名勝探訪 浅草方面	38	3.9	" (B班)	25
1.29	総会準備(まとめ)	19	3.13	史談会 No.6 酒々井町の石仏と文化財	9
1.31	第17回定期総会(平成5年)	110	3.12	会報編集会議	5
2.2	七草粥を食べる会	75	3.16	研修部会	11
2.13	史談会 No.5 酒々井町の石仏と文化財	8	3.25	会報校正	9
2.18	会報編集会議	6	3.30	会報発送	25



名勝探訪 4/6(水) 6/3(木)
谷中方面 4/6(水)

谷中に眠る著名人の墓めぐり

谷中霊園は寛永寺と天王寺の寺領であったが明治になり都の公共墓地となりました。日暮里駅西口から駅前の石段を登ると石畳の参道が続き、両側は桜並木となっていて花期には花見客で賑わう所です。私たちもここをゆっくり散歩しようと思います。

参道の中頃に都内唯一の墓地駐在所と天王寺五重塔跡があります。

霊園には明治から現在までの政治家・実業家・役者など有名な人の墓が多く、又、徳川家歴代正室の墓や第十五代徳川慶喜公もここに眠っています。

一日ゆっくりと墓地巡りをしてみませんか。

◎王子・駒込方面 6/3(木)

本郷通りに沿って

紙の博物館は昭和二十五年、全国の製紙会社・製紙用具製造会社の支持で設立され、館内には色々の紙の種類、紙で作られた美術品、工芸品等が展示されています。これより本郷通りを散策しながら渋沢史料館等を見学し昼食。

午後からは旧古河庭園へ行きます。旧古河庭園は、大正六年古河市兵衛が造園した庭園で武蔵野台地の裾の土地の高低差を利用して和洋両型式を巧みに使い分けた近代庭園です。特にバラの開花時はみごとです。

最後に無量寺、妙義神社へ行きます。妙義神社は日本武尊が祀られている神社です。

帰りはJR駒込駅より上野へ出て京成に乗り換えゆつくり座って帰りましょう。

紙の博物館入館料 二〇〇円
渋沢史料館入館料 三〇〇円
旧古河庭園入館料 一〇〇円

六五歳以上の方は身分証明書を持参下さい。

一泊見学会 5/19(水) 5/20(木)

◎会津方面

新緑の映える五月、会津を訪れ名勝地と古い宿場町に昔を偲び、重要文化財のある名刹に仏心を学び、華やかな色彩豊かな花の女王、牡丹の美しさを訪ねます。ホテルの温泉も最高です。

▼塔のへつり(福島県下郷町)

湯野上の上流約三キロ、大川の対岸にある、川に向かった岩肌は石英粗面岩や凝灰岩で、それが侵食されて塔がいくつも並んでいるように見える。「へつり」と呼ばれているのは岩をへつるように道がついていることから塔のへつりと言われている。

▼大内宿(下郷町)

会津西街道の宿場で、道の両側に昔のまの茅葺きの家があったらび、歴史が凍結したような面影である。

▼芦の牧温泉(会津若松市)

会津若松の南部大川に沿った温泉。宿泊はグランドホテル。

▼勝常寺(湯川村)

国重要文化財の指定をうけた仏像を二軀もつ東北でも有数の名刹で、一ヶ所にこれだけの数の文化財が残されているのは全国的にまれなものである。

宿泊 芦の牧グランドホテル (電話 〇二四二(九三)二二二一)

目的にまれなものである。

▼忠隆寺立木観音(会津坂下町)

この堂は鎌倉初期に創建、元和三年に修理再建したもの。本尊十二面千手観音は弘法大師が精魂こめて彫刻した像高二丈八尺の一木彫り、わが国最大の木像です。

▼柳津園蔵寺(柳津町)

大同二年、徳一大師の創建開基。本尊は福満虚空蔵尊、弘法大師の作で五寅年生れの守本尊であり、日本三所の一つに数えられ靈驗あらたかなこと有名高い。

▼野口英世生家(猪苗代町)

トラホーム、破傷風、黄熱病などの伝染病の研究で世界にその名を知られる。昭和三年西アフリカのアクラに赴き、黄熱病の研究中に感染、その地に没した。

▼須賀川牡丹園(須賀川市)

国道一八号線沿いにある東洋一のボタンの名勝地で、二〇〇年以上たった老木のボタンは見もの。明和年間(一七六四〜一七七七)に根を薬用とするために植栽されたのが始まりで、昭和七年園の名勝の指定を受け、入園者を感嘆させている。



郷土研 行事業案内

平成5年4月～6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	休 み	休 み	休 み
「香をきく会」 (3回)	10日(土)午後5時～午後6時30分 中央公民館和室 「お香の歴史と香道」 ◎申込受付 4月7日(水)午前9時 ◎場 所 中央公民館ロビー	8日(土)午後5時～午後6時30分 中央公民館和室 「粗香の仕組みと六国五味」 ◎定 員 50名 ◎参加費 500円(3回分)	12日(土)午後5時～午後6時30分 中央公民館和室 「季節の粗香」体験 講師 成田東門前「詩仙香房」 丸岡ひとみさん
名勝探訪 野草の会	4月6日(火) 京成酒々井駅 8:15集合 名勝探訪 谷中方面(桜観賞) 京成酒々井→日暮里→谷中 →谷中桜並木・天王寺駐在所→ →五重塔跡→京成上野→ 酒々井(長谷川一夫・沢田正二郎・佐藤 尚中・朝倉文夫・龜山一郎他 (雨天中止)	5月の名勝探訪は「休み」ます。 4月15日(木) 午前11時30分 中央公民館講堂(雨天実施) 野草の会 山菜を食べる会 会費 600円 申込受付 4月7日 午前9時 場 所 公民館ロビー 定 員 80名 (お昼出席の方は9:00までに来て下さい)	6月3日(木) 京成酒々井駅 8:15集合 名勝探訪 王子・駒込方面 京成酒々井→日暮里→JR王子→ 紙の博物館(入館料200円)→法政史料 館(入館料300円)→西が原一里塚→ →平塚城跡・平塚神社(昼食)→ →旧吉河庭園(入園料100円)→無量寺→ 妙義神社→JR駒込→上野→ →京成酒々井 (雨天中止)
史跡文化財 愛護活動	4月22日(木) 午前10時 作業開始 (雨天中止) 代替日 4月24日(土)	現地集合 作業場所(1)上岩播見層(2)カンカム口横穴群 (3)伊篠松並木(4)古松碑 カマヤくまで等作業用耳を持参してご協力をお願いします。 現地の分らない方は酒々井町社会福祉協議会入口に 午前9時50分までに来て下さい。	
町内史跡めぐり 「伝説を訪ねて」 (教育委員会共催)	5月16日(日) 午前8時40分～9時受付(9時出発) 集合場所 中央公民館 雨天時 5月23日(日)に実施 ◎申し込み 4月末までは郷土研の行事時 に随時受け付けます。それ以後は 5月6日(月)～11日(火)までに 社会教育課 TEL(446)1171内線 189までお申し込み下さい。 ◎参加費 大人200円 子供100円 幼児無料 (保険・資料代として) ◎用意するもの 弁当・水筒・敷物・雨具など ◎雨天の時 7時30分以降に天候に問い合わせ下さい。 会長 会田秀雄	コース(約10キロ) (昼食時「ぜんざい」を たべていただきます) 中央公民館→勝蔵院(首を問違わらぬ不動さま)→福院 (酒の井)→古松碑(大きな松)→下り松(百とらす)→カン カム口(寝賢し伝説)→千葉さま茶井戸→蔵鳥の弁 天さま(城へかかった長い橋)→吉祥寺(摩訶羅石・弘法 さまの乳の井)→隣保館(昼食・ぜんざい)→清光寺(泰 康と無算和尚)→五良神社(鎌倉権五郎)→ 文殊寺跡(五色の花咲く桜と天狗の話)→公民館	初夏の風に吹かれながら、ゆづりのんびり歩きます。 酒々井の音とかがしが 見えてくるかも!
1泊 見学会	5月19日(水)～20日(木) 申込受付 4月7日(水)9時 受付場所 公民館ロビー 定 員 45名 費用 23,500円 キャンセル 実施日より7日前まで(5/12) キャンセル受付 会田秀雄宅 出発時刻 午前8時 中央公民館	福島県会津方面 (宿・芦の牧グランドホテル) TEL 0242-92-2221 5/19 酒々井→塩原(昼食)→下郷町(塔のへつろ・大内宿)→ 会津若松市(芦の牧温泉)◎ 5/20 芦の牧→湯川村(勝蔵寺)→会津坂下町(恵隆寺・立木 観音)→柳津(田蔵寺・虚空蔵)→志田浜(昼食)→梅田代 町(野口英世記念館)→須賀川市(牡丹園)→酒々井 (19:00 帰着予定)	

桜の花と一よに会報六十八号をお届けます。今年度より郷土研究会の目的をより円滑に遂行するために会則が一部改正され、総務部、企画部、研修部及び野草の会部の四つの専門部会が設けられました。運営委員一同皆様に委ねられ、待たれる郷土研究会にしていただけるよう努力したいと思います。皆様の御意見、御希望をお寄せ下さい。お待ちしております。



約一キロの道のりですが、初夏の風に吹かれながら、お弁当を持ってゆづりのんびり歩きましょう。物語を次の時代へつなぐ子供達を誘っての参加お待ちしております。

「町内史跡めぐり」5/6(日)
(雨天中止) 代替日 5/23(日)
伝説を訪ねて
おいさん、おばあさん、そのま
たおいさん、おばあさんと何代に
もわたって伝えられてきた伝説の
地を訪ねます。この酒々井には町名発
祥の由来をもつ「酒の井」の碑を始め
としてカンカム口の「寝賢し伝説」、
江戸の仏師に武田信玄の首を問違え
て付けられたしまった勝蔵院のお不
動さまや文殊寺の「天狗の話」など
数多くの話が伝えられています。こ
んな話をその地で聞いたら酒々井の
昔むかしが見えてくるかも!